

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「公衆衛生医師の人材育成に向けた好事例の横展開に向けた研究」
令和4年度 分担研究報告書

「公衆衛生医師に期待するコンピテンシーの調査」

横山勝教（香川県東讃保健福祉事務所）、宮園将哉（大阪府健康医療部保健医療室）、
武智浩之（群馬県利根沼田保健福祉事務所）、山本長史（北海道渡島総合振興局（渡島
保健所兼八雲保健所）

研究要旨

【目的】

社会医学系専門医が持つべきとされる8つのコンピテンシーについて、業務とコンピテンシーの組合せ素案を作成し、公衆衛生医師の人材育成に活用可能な事例を収集する。最終的には、社会医学系専門医制度で推進する、人材育成方針に資する成果物となることを目指す。

【方法】

大阪府保健所長会と大阪府保健所医師会が作成した「人材育成のための職業モデル事例集」が9月に公開されたため、これを素案の代用とし、全国保健所長会の「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」班の専門性調査グループ10名を対象にデルファイ法を用いて事例集に関する統一的な見解を得ることとした。11月に第1回、12月に第2回アンケート調査を実施した。アンケート結果により集約された意見をもとに、上述の全国保健所長会の事業協力者24名に具体的な事例の提供を求めた。

【結果】

デルファイ法のアンケートには10名中8名から回答を得ることができ、1つの事例の中に「倫理的行動能力」「事業・組織管理能力」「コミュニケーション能力」「研究推進と成果の還元能力」が含まれる事例が最も人材育成の事例集に入れるべき事例として選ばれた。次に高い評価を得たのは、経験することの少ない災害時対応を疑似体験として学ぶことができ、かつ「パートナーシップ構築能力」が含まれる事例であった。また、コロナ対策に関連する事例に偏ることなく、公衆衛生医師の幅広い業務についてバランスよく事例を集め、専攻医が多分野の事例からコンピテンシーを学べる事例集を作成すべきとされた。

具体的な事例の提供は、24名中10名から提供を受けることができたものの、読みやすいように登場人物の設定や文体、構成を統一する必要がある、成果物の完成とホームページへの掲載については全国保健所長会の地域保健総合推進事業班に継続を依頼した。

【結論】

コンピテンシーと業務の組み合わせは1対1対応できるものではなく、複数のコンピテンシーを含む多種多様な事例を事例集としてまとめることで、専攻医がまんべんなく学べる教材が作成できる可能性があり、その完成に向けて推進することができた。

A. 研究目的

近年、新型コロナなどの感染症や地震や水害等の大規模な自然災害など、大きな健康危機事案が続発しており、公衆衛生医師の人材育成において社会医学系専門医が持つべき8つのコンピテンシー「基礎的な臨床能力」「分析評価能力」「事業・組織管理能力」「コミュニケーション能力」「パートナーシップ構築能力」「教育・指導能力」「研究推進と成果の還元能力」「倫理的行動能力」を獲得する重要性が強く認識されるようになってきた。

一方で、社会医学系専門医の専門研修プログラム整備基準¹⁾で示されるそれぞれのコンピテンシーについては、公衆衛生医師の経験する業務とその業務遂行の際に必要なコンピテンシーの明確かつ具体的な例示はなく、専攻医からも抽象的で分かりにくいという声が聞かれている。

このため、業務とコンピテンシーの組合せを示す具体的な事例を作成し、公衆衛生医師のキャリア形成の中で経験する事例においてコンピテンシーの活用例を示す事例集のあり方について意見集約を行うとともに、集約された意見をもとに実際の事例を収集することで、人材育成に資する成果物となることを目的とした。

B. 研究方法

令和4年9月に、大阪府保健所長会と大阪府保健所医師会が、専攻医に研修により身につけるコンピテンシーのイメージができるようにするとともに、専攻医の指導において、指導医間での専攻医が獲得すべきコンピテンシーレベルの認識の違いを無くし、府内で共通のイメージをもって若手行政医師等の人材育成ができることを目的とした「行政医師・歯科

医師人材育成の職業モデル事例集

2022」²⁾（以下、大阪府事例集）を作成された。この大阪府事例集は、第1部「コンピテンシーを用いた業務遂行及び課題解決の事例編」（図1）と第2部「日々の業務で遭遇することが想定される困難事例への対応編」（図2）の2部構成となっており、この第1部は、まさに“公衆衛生医師が行う業務の具体的な架空の事例において、それらに社会医学系専門医が持つべきとされる「8つのコンピテンシー」を当てはめた、業務とコンピテンシーの組合せを具体的に示すもの”であり、本研究が目指す成果物の素案の代用にすることとした。

（図1）大阪府事例集第1部目次

<2> 事例	P10
【第1部】コンピテンシーを用いた業務遂行及び課題解決の事例編	
事例1：新人医師、1年間で関係機関に事業関連情報を的確に説明できるよう、成長することができた	・・・ P11
事例2：事業の中間結果に対する見方がその後の政策に影響する局面で、適正な判断と助言をタイムリーに上司にすることができた	・・・ P17
事例3：管内における新型コロナクラスター事例のまとめ、報告会、研修会まで実施することができた	・・・ P22
事例4：初めてのDH/EAT派遣において現地で十分に派遣班のリーダーとしての役割を果たすことができなかった	・・・ P25
事例5：大阪府内で震度6強の地震が発生！大混乱の中、保健所における活動をスムーズに行えた	・・・ P31
事例6：所内の多職種職員に対してナッジ理論とその活用例を研修・指導し、実際に生かすことができた	・・・ P36
事例7：手段が目的化しがちでコミュニケーション能力が低い保健所長と、頼まれたらNoと言えない呼吸器内科主任部長との間で起きた研修企画の軌道修正を図ることができた	・・・ P42
事例8：担当課のミッションであった県内の健康格差の是正に関する企画立案をタイムリーに行い、市町が実施主体となる新規事業の実現につなげることができた	・・・ P47
総括的解説	
職業能力：「身に付ける」と「実務に生かす」の谷間を埋めるには？	P52

(図2) 大阪府事例集第2部目次

【第2部】日々の業務で遭遇することが想定される困難事例への対応編	
事例1：スマホの利用について	・・・ P54
事例2：会議の効率化について	・・・ P56
事例3：部下が指示に従わない場合	・・・ P58
事例4：所内での対立	・・・ P60
事例5：事業改善	・・・ P62
事例6：公用車の事故	・・・ P64
事例7：事務のミスへの対応	・・・ P66
事例8：ころがしんどのかなと思ったら...	・・・ P68
事例9：議員対応	・・・ P70
事例10：困った所長	・・・ P72
<3> 参考資料	P74
社会医学系専門医研修において獲得を目指す8分野のコンピテンシー	

全国保健所長会の「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」班の中で公衆衛生医師のコンピテンシーを調査する専門性調査グループ10名（社会医学系専門医・指導医5名、社会医学系専門医制度専攻医5名）に大阪府事例集をメールの添付ファイルで送付し、それを読んだ上で、公衆衛生医師の人材育成のための事例集のまとめ方や活用方法、どのような事例を含めるべきかについてWebアンケートに個別に回答してもらい、全員の回答の集計結果をフィードバックして再度、アンケートに個別に回答してもらうことで、統一的な見解を得ることとした。11月に第1回アンケート調査を行い、集計分析結果をフィードバックした後に、12月に第2回アンケート調査を実施した。

2回目のアンケートの集計結果をフィードバックし、10名の意見が集約されていて、これ以上の繰り返しの必要がないことを確認してデルファイ法としてのアンケート調査を終了した。集約された意見をもとに、上述の全国保健所長会の事業協力者24名に具体的な事例の提供を

求めた。

<倫理的配慮>

大阪府事例集は作成の過程で事例を特定できないようフィクション化されていた。また、デルファイ法に用いるアンケート調査は匿名回答とし、提供された事例についても事例を特定できないようフィクション化の処理をした。

C. 研究結果

全国保健所長会の「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」班の専門性調査グループ10名のうち、8名がデルファイ法のアンケート調査に回答をした。2回の調査の結果、大阪府事例集の第1部「コンピテンシーを用いた業務遂行及び課題解決の事例編」に記載されている8つの事例のうち、どの事例に類似した事例を収載すべきか、それぞれ5段階評価（最低1点；最高5点）で尋ねたところ、「事例7：手段が目的化しがちでコミュニケーション能力が低い保健所長と、頼まれたらNoと言えない呼吸器内科主任部長との間で起きた研修企画の軌道修正を図ることができた」「事例8：担当課のミッションであった県内の健康較差の是正に関する企画立案をタイムリーに行い、市町が実施主体となる新規事業の実現につなげることができた」の2事例が最も高い評価を得た（ともに平均で1回目4点、2回目4.125点）。

2つの事例に共通するのは1つの事例の中に「倫理的行動能力」「事業・組織管理能力」「コミュニケーション能力」「研究推進と成果の還元能力」が含まれることであった。次に高い評価を得たのは「事例4：初めてのDHEAT派遣において現地で十分に派遣班のリーダーとしての役割を果たすことができなかった」（平均で1回目3.875点、2回目4点）、「事例5：大阪府内で震度6強の地震が発生！大混乱

の中、保健所における活動をスムーズに行えた」(平均で1回目、2回目ともに3.875点)であり、災害時対応を疑似体験として学ぶことができ、かつ「パートナーシップ構築能力」が含まれる事例であった(表1)。

(表1) デルファイ法の平均点数

第1部	第1回点数	第2回点数
事例1	3.5	3.375
事例2	3.75	3.75
事例3	3.25	3.25
事例4	3.875	4
事例5	3.875	3.875
事例6	3.375	3.125
事例7	4	4.125
事例8	4	4.125

また、新たに作成する事例集は新型コロナウイルス感染症対策に偏らず、医療政策や環境衛生分野など公衆衛生医師が遂行する多分野からバランスよく事例を収集することが望ましいとされた。活用方法としては、社会医学系専門研修プログラムを履修する専攻医が指導医とのマンツーマン指導でディスカッションできる、使いやすいケーススタディ教材が望ましいとの意見が75%、専攻医が独学する教材として使いたいという意見が62.5%であった。

これらの結果をもとに、全国保健所長会の「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」班の事業協力者24名へ事例提供を呼びかけたところ、10名から提供があり、業務分野としては結核対策2つ、結核以外の感染症対策3つ、健康づくり対策2つ、地域包括ケアシステムの構築1つ、地域医療対策3つ、食中毒防止対策1つ、災害対策1つ、国際保健1つの事例が含まれていた。

提供のあった事例の1つをA4表裏2枚、本文1000字程度、コラム500~600字程度で図3、4のような形式にしてひな形を作成し、その他の事例もその形式に合わせて加工することとした。

(図3) 事例ひな形(表)

事例(事例の番号入れる)

中学生のヘリコバクター検査を自治体検診で実施するべきか、医学的見地から判断、対策を示した事例
登場人物のプロフィール: □□ 初期研修⇒研究(公衆衛生等)⇒行政、40歳代
大学院で公衆衛生の研究をして、修了後に県庁の健康福祉部へ入職。
事例の分野: 06健康づくり対策
コア・コンピテンシー: 2 分析評価能力、7 研究推進と成果の還元能力

キーワード: 議会、議員への対応、文献検索

ある日、A県の健康福祉部政策主幹から、健康福祉部の○○として働く□□に以下のような相談、依頼があった。
健康福祉部政策主幹(事務職): 県議会議員の△さんから次の議会でごん質問をしたいと考えていると情報が入ったのだけど…。
健康福祉部○○ □□(公衆衛生医師): どういったことですか?
健康福祉部政策主幹(事務職): 「うちの政界のお医者さんで参議院議員をしている先生が書いた本にもやったほうがいいと書いてあるので、胃がん対策として他の自治体で実施している中学生対象のヘリコバクターピロリの検査を自分たちの自治体でもやるべきではないか」という内容なのだが、本県でも実施するべきかどうかも含めて根拠を示して部次長と県議会議員に説明してほしい。
健康福祉部○○ □□(公衆衛生医師): 承知しました。こちらで考えてみます。

Q: あなたなら、どのように医学の専門家ではない事務職の上司と県議会議員に説明をする?

組織図・関係図



(図4) 事例ひな形(裏)

□□の取った対応
ヘリコバクター学会の主張する中学生でのスクリーニング検査の流れと現在の中学生の保菌率について文献検索を行い、検査の感度・特異度・保菌率から中学生全員に行った場合に、スクリーニングによって真の保菌者を除菌治療まで導ける率と偽陽性者への不必要な介入につながる率を算出し、現在の日本で中学生全員を対象としたスクリーニング検査を行うことは推奨されないことを分かりやすく数字で示した。また、小児科医の「小児科領域でもスクリーニング検査を全員に行うことが推奨されていない、親のピロリ菌感染や胃がんの既往歴のあるハイリスクの子どもが保険適応で除菌ができる高校生、大学生になってから検査を保険診療で行うべき」と記されている文献を示し、県で行うことがあるとすれば、そのことについての啓発をがん検診ががん教育の一環として行うことであろうと説明した。

A:
1つだけの学会や医師の推奨を鵜呑みにせずに、複数の関連する学会の推奨や国内外の文献を幅広く批判的に読みながら、現時点で自分の自治体でどうするのがよいかを考えるべし。

参考文献

- H. pylori 感染の診断と治療のガイドライン2016改訂版
<https://www.jshr.jp/medical/journal/file/guideline2016.pdf>
- 中学生ピロリ菌検査と除菌治療 自治体向けマニュアル
https://www.jshr.jp/medical/committee/young/file/manual_220727.pdf
- 小児期ヘリコバクター・ピロリ感染症の診療と管理ガイドライン2018(改訂2版)
https://www.jpghan.org/images/helicobacter_guideline2018.pdf
- ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 第3版 第3章-4: 小児の除菌治療方法と対象疾患
<https://www.jmedj.co.jp/premium/hppg/data/0304/>

コラム(番号) 議員さんからの質問から、住民啓発のヒントをつかめ!

このケースだけでなく本庁に勤務している間は、臨床医が書いた健康関連の書籍に影響を受けた議員さんから「これを住民に広めてはどうか」と質問されることが度々ある。臨床医の主張には集団に対して施行する場合の費用対効果や利益・不利益の考え方、地域の医療資源をふまえた実現可能性などが欠けていることもあるので、広く住民に対して適応したほうが良いものか、実行できるものかどうかは公衆衛生学的な判断が必要である。ただし、議員さんは住民の代表であり、その声の後ろには保健福祉行政に対して同じような疑問や考えを抱いている住民さんが多数存在する可能性がある。1人の議員の質問と思わずに、丁寧に調べて分かりやすく説明しながら、住民啓発のヒントにしよう。そうした対応を重ねることで、将来、新聞やテレビなどの記者から説明を求められる立場になった時にも常に住民を意識した応答ができるようになるだろう。

なお、費用対効果については保健医療経済評価研究センター(<https://c2h.nih.go.jp/>)が参考になる。

所長会の事業班に継続を依頼した。

D.考察

公衆衛生医師は各自治体単位では少数しかいないため、新たに入職してきた医師がOJTで必要なコンピテンシーをまんべんなく習得することが難しい。その現状を改善する一つの手段として、業務とコンピテンシーの組合せを示す具体的な事例集を求める声があったものの、その事例集の作り方や活用法について明確にされていなかった。

今回、本研究が目指す成果物の素案の代用として大阪府事例集を提示し、デルファイ法を行ったことで、掲載すべき事例内容や事例集の活用方法について明らかにすることができた。

大阪府事例集の8つの事例はいずれも1つの事例の中で業務遂行及び課題解決のために3つ以上のコンピテンシーを用いており、とくに高い評価を得た事例は、医学の専門職としての臨床や研究の知識だけでなく、専門的知識と同時に高い倫理性やマネジメントが必要とされる事例だった。多くのコンピテンシーを同時に発揮しながら複雑な課題を解決するような事例をケーススタディとして学ぶことが、人材育成に重要であるということが現役の公衆衛生医師の意見として集約されたと考える。独自に事例集を作成することが難しい自治体にとっては、全国保健所長会の事業班等が全国の多くの公衆衛生医師から幅広く事例を収集して、その経験と知識を共有しながら人材育成に資する教材を作成していくことは非常に有用な手段であろう。一方で、キャリアの背景が多様な、多数の書き手による事例をそのまま掲載すると、読み手にとっては読みにくい教材となるため、ある程度は登場人物の設定や文体、構成を統一する必要がある。このため、成果物の完成とホームページへの掲載については全国保健

E.結論

大阪府事例集という先行的な教材を素案として代用できたため、より具体的に人材育成に必要な事例集のあり方についてデルファイ法を用いて意見集約を行うことができた。コンピテンシーと業務の組み合わせは1対1対応できるものではなく、複数のコンピテンシーを含む多種多様な事例を事例集としてまとめることで、専攻医がまんべんなく学べる教材が作成できる可能性がある。望ましい方向性を示して事例収集につなげることで、完成に向けて推進することができた。

F.引用文献

- 1) 専門研修プログラム整備基準 2020年3月29日改訂版, <http://shakai-senmon-i.umin.jp/wordpress/wp-content/uploads/%E5%B0%82%E9%96%80%E7%A0%94%E4%BF%AE%E3%83%95%E3%82%9A%E3%83%AD%E3%82%AF%E3%82%99%E3%83%A9%E3%83%A0%E6%95%B4%E5%82%99%E5%9F%BA%E6%BA%962020%E5%B9%B43%E6%9C%8829%E6%97%A5%E6%94%B9%E8%A8%82%E7%89%88.pdf>
- 2) 行政医師・歯科医師人材育成の職業モデル事例集 2022 Ver.1.1, <https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/3603/00000000/jireishu.pdf>